学園長だより 第47回

風と行く

愛知淑徳学園学園長
小林素文



「大空を舞うタンチョウ夫妻」須賀康夫写真集『美しき日本わが故郷』より

今年の第51回愛知淑徳大学祭（淑楓祭）のテーマは『繋ぐ』。「第50回まで受け継がれてきた歴史を大切にしながら、第51回がさらにその先へバトンを繋いでいく決意の表れ」とのこと。

学生が企画運営をし、キャンパスを一般に開放し、様々なイベントが学内で行われる大学祭は、西洋の大学では見られない特有なものです。

日本の祭りとは民俗学者柳田國男氏がいう「日常（ケ）から離れ、非日常（ハレ）の空間を作り出し、人々が一体となってエネルギーを発散する場」。

本年度の淑楓祭がこうした祭りの心を受け継ぎ、学生、来場者、地域の人たちが一体となり、大いに盛り上がることを心から願っています。

＊

今年の夏休みもまた猛暑。でかけることもなく朝ドラ『風、薫る』を何度となく見ていました。その主題歌の一節。

風が誘うこの町は
私と誰かを愛で繋いで
泣きたくなる日がある事も
風はただ知っている

今の時代、人は直接的な出会いだけでなくインターネットを通して見知らぬ人とも手軽に繋がります。

ネットを通して趣味や悩みなどを共有したり、「いいね」のリスポンスで精神的な支えが得られたり、仲間が空間を越えて広がったりしていく、そのことは素晴らしいことです。

が、人が人と出会い、ときめき、思いやり、愛で繋がっていく。そんな『風、薫る』で描かれる明治時代の人と人との関わりは、時空を越えて何よりも尊いものです。

初恋や灯篭によする顔と顔
（炭太祇　江戸時代の俳人）

＊

人を繋ぐものが愛であってほしいように、時を繋ぐものは希望であってほしい。希望とは「こうなりたい」と願い望む心であり、過去の希望が今に繋がり、今の希望が未来へと繋がっていくのだと信じるからです。

つなぐとは希望あること数珠球も
（後藤日奈夫）

いつの時代も主役の生徒学生たちが光輝いていることが学園の願いです。一人ひとりがそれぞれの「なりたい自分」を思い描き、溌溂と生き生きと学生生活を送り、伝統を繋いでいって下さい。

眼前は日照る寒気と希望のみ
（中村草田男）

＊

淑楓祭が行われるのは秋。楓が色づき、涼風が悠久の彼方へと吹き渡っていることでしょう。

遠くまで行く秋風とすこし行く
（矢島渚男）